文章題テスト・小説(4)

月　日
名　前

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたるは必死(ひっし)になって登りぼうをよじのぼった。【ア】

「すすむ君の勝ち。」

と、下で声がした。わたるがてっぺんへ着く(ア)より少し早く、すすむが、ゴールしていた。

「二本め。」

わたるとすすむは、登りぼうをすべりおりて、息(イ)をととのえた。

二本めは、わたるのほうが、わずかに早かった。

「よし、三本め、行こう。」

わたるは、勝ちたかった。すりきずだらけになって、いっしょうけんめいレンシュウ(ウ)してきた。まゆの喜(よろこ)ぶカオ(エ)が見たい。【イ】

「用意。」

大輔(だいすけ)が号令(ごうれい)をかけた。

「スタート。」

わっと、かん声があがった。わたるは、むちゅうで登った。

「すすむ君の勝ち。」

と、下で声がした。【ウ】

すすむは、登りぼうの上で、右手をあげて、Vサイン(ブイ)をすると、するするとぼうをすべりおり、ガッツポーズをして、とびあがった。

「やったー、ぼくが木登り名人だ！」

わたるは、登りぼうのてっぺんにつかまったまま、じっとしていた。くやしさで、なみだがぼろぼろでてきた。わっと声をあげてなきだしたいのを、

/11
問正解

名前

じっとこらえていた。【エ】

「わたる、おりてこいよ。勝負(オ)だから、しかたないだろう。」

下から大輔が、よびかけた。わたるはまだじっとしていた。大輔は、みんなにいった。

木登り名人は、すすむ君だ。

ジャングルネットの下に集まっていた三組のみんなは、帰ってしまい、大輔とまきだけが、のこっていた。

わたるは、登りぼうからおりた。だれとも話したくなかった。くちびるをかんで、校門のほうへかけだした。大輔が、

「教室にかばんを、おいてあるんだろう。どうすんだ。」

と、後ろからさけんでいた。

(大野　哲郎「友だちになれるかな」による)

1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア　つ(く)

イ　いき

ウ　練習

エ　顔

オ　しょうぶ

ア　音は「チャク」、着実、着色など。「き―る」という訓もある。

イ　音は「ソク」、休息、生息など。　ウ「練」の訓は「ね―る」、「習」の訓は「なら―う」。

エ　音は「ガン」、顔面など。　オ「勝」の訓は「か―つ」、「負」の訓は「ま―ける」「お―う」。

2 線「後」と同じへん(部首)の漢字で書き表すものを、ア～エから一つ選んで、記号に○をつけなさい。

ア　ゴールをめざしてオヨギつづける。

イ　道のヨコに大きな木がある。

ウ　つかれたので少しヤスむ。

エ　ゴールでみんながマっている。

「後」の部首は「彳(ぎょうにんべん)」。

ア「泳」、イ「横」、ウ「休」、エ「待」。

名前

3 この文章には、次の一文がぬけています。どこに入れるのがもっともふさわしいですか。文中の【ア】～【エ】から選びなさい。

> 今度、すすむに勝てば、どうどうと木登り名人になれる。

イ

三本勝負なので、二本勝てば「木登り名人」になれる。わたるが一勝した後の内ようであることを読みとろう。

4 ――線「わたるは、登りぼうのてっぺんにつかまったまま、じっとしていた」について、①、②の問いに答えなさい。

① このときのわたるのようすや気持ちとして、もっともふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

全力をつくしたが、勝てなかったくやしさをじっとこらえているわたるのようすから考えよう。

ア　三組のみんながすすむをおうえんしたので、はらがたっている。

イ　勝負の判定（はんてい）になっとくできず、もう一度やり直したいと思っている。

ウ　勝負に負けたことがくやしくて、どうしようもなくなっている。

エ　登りぼうのてっぺんで風にふかれて、気持ちがよくなっている。

② これに対して、勝負が決まったあと、すすむはどのような行動をとりましたか。それが書かれている一文をさがし、はじめの五字を書きぬきなさい。ただし、「、」や「。」も一字とします。

すすむは、

直前で、すすむは喜びを体いっぱいに表げんしている。

5 この文章には、会話を表す「　」をつけたほうがよいところがもう一か所あります。当てはまる部分をさがして、はじめと終わりの三字をそれぞれ書きぬきなさい。ただし、「、」や「。」も一字とします。

はじめ　**木登り**

終わり　**君だ。**

直前の「大輔は、みんなにいった。」が手がかりになる。